

妊娠・授乳とくすり

妊娠中・授乳中のお薬の服用についてどんなイメージをお持ちですか？

多くの方は、「妊娠中にお薬をのむとおなかの赤ちゃんに異常が起きてしまうので絶対のんではいけない！」「おっぱいに入ってしまうので授乳中はお薬をのめない！」と考えていることでしょう。もちろんのまないに越したことはありません。一次的な症状でのまなくてものりきれそう…であれば、のまない！という選択が大切です。

しかし、お母さんの体調が悪い状態が続けば、おなかの赤ちゃんにもよいことではないので、お薬による治療が必要となる場合もあります。特に妊娠前より治療中のお母さんは、妊娠中もお薬が必要なことが多くあります。自己判断でお薬を中止し病気が悪化してしまうと、お母さんだけでなく赤ちゃんにも悪影響を及ぼすことが報告されています。例えば、喘息のお母さんがしばしば発作を起こし呼吸が苦しい状況では、おなかの赤ちゃんにも十分な酸素がいかないことになり、発育が遅れるなどの悪影響が心配されます。お母さんの病気が安定していることが大切です。治療中の方は、あらかじめ妊娠前に妊娠時期やお薬について主治医と相談していくことをお勧めします。

また、ほとんどのお薬は母乳に移行することが知られています。その量はお薬によって異なりますが、わずかなものが多いとされています。赤ちゃんにとって母乳ほどよいものはありません。お薬をのみたいたからと授乳を中断し、大事な母乳を無駄にしてしまうのはもったいないですし、乳房のケアをきちんとしないと乳腺炎などのトラブルも起こしかねません。妊娠中・授乳中のお薬の服用は、お母さんへの有用性と赤ちゃんへのリスクのバランスを考えて、お薬を使用した方がよいのか、どのお薬を使用したらよいのか、個々に相談していく必要があります。

ところで、妊婦さんは葉酸を摂った方がいいという話を聞いたことはありますか？

葉酸の摂取により先天異常の1つの「神経管閉鎖障害」の発生リスクを低減させることがわかっています。妊娠のごく初期に起こることなので、妊娠がわかってからの摂取では遅く、妊娠の1か月以上前から妊娠3か月までの摂取が推奨されています。妊娠の可能性のある女性は、サプリメントなどを利用し1日400 μ gの葉酸を摂るように心がけましょう。

認定薬剤師は、産婦人科で開催している「母親学級」で妊娠中のお薬についてお話ししたり、産婦人科医や各科の医師を通してお薬の相談をお受けしたりしています。妊娠中・授乳中のお薬の不安を解消し、お母さんと赤ちゃんが共に元気に過ごしていくためのお手伝いのできたらと考えています。

【妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師 根岸由美】

